

ネヘミヤ記

第一章一八カリヤの子ネヘミヤの言詞第二十一年キスレウの月我
シユシヤンの都にありける時二わが兄弟の一人なるハ十二數人
の者とともにユダより來りしかば我俘虜人の遺餘なる夫の逃れ
かへりしユダヤ人の事およびエルサレムの事を問たづねしに三
彼ら我に言けるは俘虜人の遺餘なる夫の州内の民は大なる患難
に遭ひ凌辱に遭ふ又エルサレムの石垣は打崩され其門は火に
焚たりと四我この言を聞坐りて泣き數日の間哀しみ断食し天の
神に祈りて言ふ五天の神エホバ大なる畏るべき神己を愛し己
の誠命を守る者にむかひて契約を保ち恩恵を施こしたまふ者よ
六ねがはくは耳を傾むけ目を開きて僕の祈禱を聴いたまへ我
いま汝の僕なるイスラエルの子孫のために日夜なんぢの前に祈
り我儕イスラエルの子孫が汝にむかひて犯せし罪を懺悔す誠に
我も我父の家も罪を犯せり七我らは汝にむかひて大に惡き事を
行ひ汝の僕モーセに汝の命じたまひし誠命をも法度をも例規
をも守らざりき八請ふ汝の僕モーセに命じたまひし言を憶ひた
まへ其言に云く汝ら若罪を犯さば我汝らを國々に散さん九然
れども汝らもし我にたちかへり我誠命を守りてこれを行なはば
暇令逐れゆきて天の涯に在るとも我そこより汝等をあつめ我名
を住はせんとて撰ひし處にきたらしめんと一〇そもそも是等の
者は汝が大なる能力と強き手をもて贖ひたまひし汝の僕なんぢ

の民なり一主よ請ふ僕の祈禱および汝の名を畏むことを悦こ
ぶ汝の僕等の祈禱に耳を傾けたまへ願くは今日僕を助けて
此人の目の前に憐憫を得させたまへこの時我は王の酒人なりき
第二章一茲にアルタシヤスタ王の二十年ニサンの月王の前に酒
のいでし時我酒をつぎて王にたてまつれり我は今まで王の前に
て憂色を帯しこと有ざりき二王われに言けるは汝は疾病も有ざ
るに何とて面に憂色を帯るや是他ならず心に憂ふる所あるなり
と是において我甚だ大に懼れたりしが三遂に王に奏して曰ふ願
くは王長壽かれ我が先胆の墓の地たるその邑は荒蕪その門は火
にて焚たれば我いかで顔に憂色を帯ざるを得んやと四王われに
向ひて然らば汝何をなさんと願ふやと言ければ我すなはち天の
神に祈りて五王に言けるは王もし之を善としたまひ我もし汝の
前に恩を得たる者なりせば願くはユダにあるわが先祖の墓の邑
に我を遣はして我にこれを建起さしめたまへと六時に后妃も傍
に坐しをりしが王われに言けるは汝が往てをる間は何程なるべ
きや何時頃歸りきたるやと王かく我を遣はすことを善としけれ
ば我期を定めて奏せり七而して我また王に言けるは王もし善と
したまはば請ふ河外ふの総督等に與ふる書を我に賜ひ彼らをし
て我をユダまで通さしめたまへ八また王の山林を守るアサフに
與ふる書をも賜ひ彼をして殿に属する城の門を作り邑の石垣お
よび我が入べき家に用ふる材木を我に授けしめたまへと我神善
く我を助けたまひしに因て王これを我に允せり九是に於て我河

外心の総督等に詣りて王の書をこれに付せり王は軍長數人に騎兵をそへて我に件なはせたり。○時にホロ二人サンバラテおよびアンモ二人奴隸トビヤこれを聞きイスラエルの子孫の安寧を求むる人來れりとて大に憂ふ。我ついにエルサレムに到りて彼處に三日居りける後、夜中に起いでたり數人の者われに伴なふ我はわが神がエルサレムのために爲せんとて我心に入たまひし所の事を何人にも告しらせず亦我が乗る一匹の畜の外には畜を引つれざりき。我すなはち夜中に立いで谷の門を通り龍井の對面を経糞門に至りてエルサレムの石垣を聞せしにその石垣は頽れをりその門は己に火に焚てありき。かくて又前みて泉の門にゆき王の池にいたりしに我が乗る畜の通るべき處なかりき。我亦その夜の中に溪川に沿て進みのぼりて石垣を觀めぐり頓て身を反して谷の門より歸りいりぬ。然るに牧伯等は我が何處に往しか何を爲しかを知らざりき我また未だこれをユダヤ人にも祭司にも貴き人にも方伯等にも其他の役人にも告しらせざりしが、遂に披らに言けるは汝らの見ることく我儕の境遇は悪くエルサレムは荒はてその門は火に焚たり來れ我儕エルサレムの石垣を築きあげて再び世の凌辱をうくることなからんと。而して我わが神の善われを助けたまひし事を彼らに告げまた王の我に語りし言詞をも告しらせければ去來起て築かんと言ひ皆奮ひてこの美事を認めんとす。○時にホロ二人サンバラテ、アンモ二人奴隸トビヤおよびアラビヤ人ガシムこれを聞て我ら

を嘲けり我儕を悔りて言ふ汝ら何事をなすや王に叛かんとするなるかと。我すなはち答へて彼らに言ふ天の神われらをして志を得させたまはん故に其僕たる我儕起て築くべし然ど汝らはエルサレムに何の分もなく權理もなく記念もなしと

第三章。茲に祭司の長エリアシブその兄弟の祭司等とともに起て羊の門を建て之を聖別てその扉を設け尚も之を聖別てハンメアの戌樓に及ぼし又ハナネルの戌樓に及ぼせり。○その次にはエリコの人々を築き建て其次にはイムリの子ザツクル築き建たり。○魚の門はハツセナアの子等これを建構へその扉を設けて之に鎖と門を施こせり。○その次にはハツコツの子ウリヤの子メレモタ修繕をなし其次にはメシザベルの子ベレキヤの子メシユラム修繕をなしその次にはバアナの子ザドク修繕をなし。○その次にはテコア人等修繕をなせり但しその貴き族はその主の工事に服せざりき。○古門はパセアの子ヨイアダおよびベソデヤの子メシユラムこれを修繕ひ構へその扉を設けて之に鎖と門を施せり。○その次にはギベオン人メラテヤ、メロノテ人ヤドン河外心の總督の管轄に属するギベオンとミツパの人々等修繕をなせり。○その次にはハルハヤの子ウジエルなどの金工修繕をなし其次には製香者ハナニヤなど修繕をなしエルサレムを堅うして石垣の廣き處にまで及べり。○その次にはエルサレムの郡の半の知事ホルの子レバヤ修繕をなせり。○その次にはハルマフの子エダヤ己の家と相對ふ處を修繕りその次にはハシヤブニヤの子ハツトシ

修繕をなせり^二ハリムの子マルキヤおよびバハテモアブの子ハシユブも一方を修繕ひまた爐戎樓を修繕へり^三その次にはエルサレムの郡の半の知事ハロヘシの子シャルムその女子等とともに修繕をなせり^三谷の門はハヌン、ザノアの民と偕に之を修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施しまた糞の門までの石垣一千キユビトを修繕り^四糞の門はベテハケレムの郡の半の知事レカブの子マルキヤこれを修繕ひ之を建なほしてその扉を設け之に鎖と門を施こせり^五泉の門はミツパの郡の知事コロホゼの子シャルンこれを修繕ひ之を建なほして覆ひその扉を設け之に鎖と門を施こしまた王の園の邊なるシラの池に沿る石垣を修繕てダビデの邑より下るところの階級にまで及ぼせり^六その後にはベテズルの郡の半の知事アズブクの子ネヘミヤ修繕をなしてダビデの墓に對ふ處にまで及ぼし堀池に至り勇士宅に至れり^七その後にはバニの子レホムなどのレビ人修繕をなし其次にはケイラの郡の半の知事ハシヤビヤその郡の爲に修繕をなせり^八その後にはケイラの郡の半の知事ヘナダデの子バワイなどいふ其兄弟修繕をなし^九その次にはエシユアの子ミツパの知事エゼル石垣の彎にある武器庫に上る所に對へる部分を修繕ひ^{一〇}その後にはザバイの子バルク力を竭して石垣の彎より祭司の長エリアシブの家の門までの部分を修繕ひ^{一一}その次にはハツコツの子ウリヤの子メレモテ、エリアシブの家の門よりエジアシブの家の極までの部分を修繕ひ^{一二}その次

には窪地の人なる祭司等修繕をなし^{一三}その次にはベニヤミンおよびハシユブ己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはアナニヤの子マアセヤの子アザリヤ己の家に近き處を修繕ひ^{一四}その次にはヘナダデの子ビンヌイ、アザリヤの家より石垣の彎角までの部分を修繕へり^{一五}ウザイの子パラルは石垣の彎に對ふ處および王の上の家より聳え出たる戎樓に對ふ處を修繕り是は侍衛の廳に近し其次にはパロシの子ベダヤ修繕をなせり^{一六}時にネテ二人オベルに住をりて東の方水の門に對ふ處および聳え出たる戎樓に對ふ處まで及べり^{一七}その次にはテコア人聳出たる大戎樓に對ふところの部分を修繕てオベルの石垣に及ぼせり^{一八}馬の門より上は祭司等おのおのその己の家と相對ふ處を修繕り^{一九}その次にはインメルの子ザドク己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはシカニヤの子シマヤといふ東の門を守る者修繕をなし^{二〇}その次にはシレミヤの子ハナニヤおよびザラフの第六の子ハヌン一方を修繕ひその後にはベレキヤの子メシユラム己の室と相對ふ處を修繕へり^{二一}その次には金工の一人マルキヤといふ者ハンミフカデの門と相對ふ處を修繕ひて隅の昇口に至りネテ二人および商人の家に及ぼせり^{二二}また隅の昇口と羊の門の間は金工および商人等これを修繕へり

第四章 茲にサンバラテわれらが石垣を築くを聞て怒り大に憤ほりてユダヤ人を罵れり^二即ち彼その兄弟等およびサマリアの軍兵の前に語りて言ふ此軟弱しきユダヤ人何を爲や自ら強くせ

んとするか獻祭まつりをなさんとするか一日に事を終んとするか塵堆の中の石は既に燬たるに之を取出して活さんとするかと^三時にアンモ二人トビヤその傍にありてまた言ふ彼らの築く石垣は狐上るも圮くるべしと^四我らの神よ聴たまへ我らは侮らる願くは彼らの出ず凌辱をその身の首に歸し彼らを他國に擄とらはれしめ掠られしめたまへ^五彼らの愆を蔽ひたまふ勿れ彼らの罪を汝の前より消去しめたまはざれ其は彼ら築建者の前にて汝の怒を惹おこしたればなり^六斯われら石垣を築きけるが石垣はみな已に相連なりてその高さの半にまで及べり其は民心をこめて操作たればなり^七然るにサンバラテ、トビヤ、アラビヤ人アンモ二人アシドド人等エルサレムの石垣改修れ其破壊も次第に塞がると聞て大に怒り^八皆ともに相結びてエルサレムに攻來らんとしその中に擾亂をおこさんとせり^九是において我ら神に祈禱をなしかれらのために日夜守望者を置て之に備ふ^{一〇}ユダ人は言り荷を負ふ者の力衰へしが上に灰土おびたたくして我ら石垣を築くこと能はずと^{一一}我らの敵は言り彼等が知すまた見ざる間に我ら其中に入り之を殺してその工事を止めんと^{一二}又彼らの邊に住るユダヤ人來る時は我らに告て言ふ汝ら我らの所に歸らざるべからずと其事十次にも及べり^{一三}是に因て我石垣の後の顕露なる低き處に民を置き劍鎗または弓を持せてその宗族にしたがひて之をそなふ^{一四}我觀めぐり起て責き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ汝ら彼等のために懼るる勿れ主の大にし

て畏るべきを憶ひ汝らの兄弟のため男子女子のため妻および家のため^{一五}我らの敵おのが事の我らに知れたるをききておのが謀計を神に破られたるを聞しによりて我ら皆石垣に歸り各々その工事をなせり^{一六}其時より後わが僕半は工事に操作き半は鎗楯弓などを持て鎧を着たり牧伯等はユダの全家の後^{一七}にありき^{一八}石垣を築く者および荷を負ひはこぶ者は各々片手もて工事を爲し片手に武器を執り^{一九}築建者はおのおのその腰に劍を帯て築き建つ又喇叭を吹く者は我傍あり^{二〇}我責き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ此工事は大にして廣ければ我儕石垣にありて彼此に相離ること遠し^{二一}何處にもあれ汝ら喇叭の音のきこゆるを聞ば其處に奔あつまりて我らに就け我らの神われらのために戦ひたまふべしと^{二二}我ら斯して工事をなしけるが半の者は東雲の出るより星の現はるまで鎗を持をれり^{二三}當時われ亦民に言らく皆おのおのその僕とともにエルサレムの中に宿り夜は我らの防守となり晝は工事をつとむべしと^{二四}而して我もわが兄弟等もわが僕も我に従がふ防守の人々もその衣服を脱す水を汲に出るにも皆武器を執れり第五章^{二五}茲に民その妻とともにその兄弟なるユダヤ人にむかひて大に叫べり^{二六}或人言ふ我儕および我らの男子女子は多し我ら穀物を得食ふて生ざるべからず^{二七}或人は言ふ我らは我らの田畑葡萄園および家をも質となすなり既に飢に迫れば我らに穀物を獲させよ^{二八}或は言ふ我らは我らの田畝および葡萄園をもて金を

貸て王の租税を納む^五然ど我らの肉も我らの兄弟の肉と同じく我らの子女も彼らの子女と同じ視よ我らは男子女子を人に伏従はせて奴隷となす我らの女子の中すでに人に伏従せし者もあり如何とも爲ん方法なし其は我らの田畝および葡萄園は別の人の有となりたればなりと^六我は彼らの叫および是等の言を聞て大に怒れり^七是において我心に思ひ計り貴き人々および牧伯等を責てこれに言けるは汝らは各々その兄弟より利息を取るなりと而して我かれらの事につきて大會を開き^八彼らに言けるは我らは異邦人の手に賣れたる我らの兄弟ユダヤ人を我らの力にしたがひて贖へり然るにまた汝等は己の兄弟を賣んとするやいかで之をわれらの手に賣るべけんやと彼らは黙して言なかりき^九我また言けるは汝らの爲すところ善らず汝らは我らの敵たる異邦人の誹謗をおもひて我儕の神を畏れつつ事をなすべきに非ずや^{一〇}我もわが兄弟および僕等も同じく金と穀物とを貸て利息を取ことをなす願くは我らこの利息を廢ん^{一一}請ふ汝ら今日にも彼らの田畝葡萄園橄欖園および家を彼らに還しまた彼らに貸あたへて金穀物および酒油などの百分の一を取ることを廢よと^{一二}彼ら即ち言けるは我ら之を還すべし彼らに何を必要めざらん汝の言ることく我ら然なすべしと是に於て我祭司を呼び彼らをして此言のごとく行なふといふ誓を立しめたり^{一三}而して我わが胸懐を打拂ひて言ふ是言を行はざる者をは臨くは神是のごとく凡て打拂ひてその家およびその業を離れさせたまへ即ちその人

は斯打拂はれて空しくなれかしと時に會聚みなアーメンと云てエホバを讚美せり而して民はこの言のごとくに行へり^{一四}且また我がユダの地の總督に任せられし時より即ちアルタシヤユダ王の二十年より三十二年まで十二年の間は我もわが兄弟も總督の受べき禄を食ざりき^{一五}わが以前にありし旧の總督等は民に重荷を負せてパンと酒とを是より取り其外にまた銀四十シケルを取れり然のみならずその僕等も亦民を圧せり然ども我は神を畏るるに因て然せざりき^{一六}我は反てこの石垣の工事に身を委ね我儕は何の田地をも買しこと無し我僕は皆かしこに集りて工事をなせり^{一七}且また我席にはユダヤ人および牧伯等百五十人あり其外にまた我らの周圍の異邦人の中より我らに來れる者等もありき^{一八}是をもて一日に牛一匹肥たる羊六匹を備へ亦鶏をも許多備へ十日に一回種々の酒を多く備へたり是ありしかどもこの民の役おもきに因て我は總督の受くべき禄を要めざりき^{一九}わが神よ我が此民のために爲る一切の事を憶ひ仁慈をもて我をあしらひ給へ

第六章一サンバラテ、トビヤおよびアラビヤ人ガシムならびにその餘の我らの敵我が石垣を築き終りて一の破壊も遣らずと聞り(然どその時は未だ門に扉を設けざりしなり)^二是においてサンバラテとガシム我に言つかはしけるは來れ我らオノの平野なる某の村にて相會せんとその實は我を害せんと思ひしなり^三我すなはち使者を彼らに遣はして言らく我は大なる工事をなし居

れば下りゆくことを得ずなんぞ工事を離れ汝らの所に下りゆきてその間工事を休まずべけんやと^四彼ら四次まではのごとく我に言遣はしけるが我は何時もおくのごとく之に答へたり^五是においてサンバラテまた五次目にその僕を前のごとく我に遣はせり其手には封ぜざる書を携さふ^六その文に云く國々にて言博ぶガシムもまた然いふ汝はユダヤ人とともに叛かんとして之がために石垣を築けり而して汝はその王とならんとすとその言とくる是のごとし^七また汝は預言者を設けて汝の事をエルサレムに宣しめユダに王ありと言しむといひ傳ふ恐くはその事この言のごとく王に聞えん然ば汝いま來れ我ら共に相議らんと^八我すなはち彼に言つかはしけるは汝が言ることき事を爲し事なし惟なんぢ之を己の心より作りいだせるなりと^九彼らは皆われらを懼れしめんとせり彼ら謂らく斯なさば彼ら手弱りて工事を息べければ工事成ざるべしと今ねがはくは我手を強くしたまへ^{一〇}かくて後我メヘタベルの子テラヤの子シマヤの家に往しに彼閉こもり居て言らく我ら神の室に到りて神殿の内に相會し神殿の戸を閉おかん彼ら汝を殺さんとて來るべければなり必ず夜のうちに汝を殺さんとて來るべしと^二我言けるは我ごとき人いかで逃べけんや我ごとき身にして誰か神殿に入て生命を全うすることをもんや我は入じと^三我曉れるに神かれを遣はしたまひしに非ず彼が我にむかひて此預言を説しはトビヤとサンバラテ彼に賄賂したればなり^三彼に賄賂せしは此事のためなり即ち我

をして懼れて然なして罪を犯さしめ惡き名を我に負する種を得て我を辱しめんとてなりき^四わが神よトビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアデヤならびにその他の預言者など凡て我を懼れしめんとする者等を憶えてその行爲に報をなしたまへ^五石垣は五十二日を歴てエルルの月の二十五日に成就せり^六我らの敵皆これを聞ければ我らの周圍の異邦人は凡て怖れ大に面目をうしなへり其は彼等この工事は我らの神の爲たまひし者なりと曉りたればなり^七其頃ユダの貴き人々しばしば書をトビヤにおくれりトビヤの書もまた彼らに來れり^八トビヤはアラの子シカニヤの婿なるをもてユダの中に彼と盟を結べる者多かりしが故なりトビヤの子ヨハナンも亦ベレキヤの子メシユラムの女子を妻に娶りたり^九彼らはトビヤの善行を我前に語りまた我言を彼に通ぜりトビヤは常に書をおくりて我を懼れしめんとせり

第七章 石垣を築き扉を設け門を守る者謳歌者およびレビ人を立るにおよびて^二我わが兄弟ハナニおよび城の宰ハナニヤをしてエルサレムを治めしむ彼は忠信なる人にして衆多の者に超りて神を畏るる者なり^三我かれらに言ふ日の熱くなるまではエルサレムの門を啓くべからず人々の立て守りたる間に門を閉させて汝らこれを堅うせよ汝らエルサレムの民を番兵に立て各々にその所を守らしめ各々にその家と相對ふ處を守らしめよと^四邑は廣くして大なりしかどもその内の民は寡くして家は未だ建ざ

りき^五我神はわが心に貴き人々牧伯等および民を集めてその名簿をしらぶる思念を起さしめたまへり我最先に上り來りし者等の系図の書を得て見にその中に書しるして曰く^六往昔バピロンの王ネブカデネザルに擄^{とら}へられバピロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてエルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し是皆ゼルバベル、エシユア、ネヘミヤ、アザリヤ、リアミヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスペレテ、ビグワイ、ネホム、バアナ等に隨ひ來れり^七そのイスラエルの民の人数は是のごとしハパロシの子孫二千百七十二人^九シパテヤの子孫三百七十二人^〇アラの子孫六百五十二人^一エシユアとヨアブの族たるパハテモアブの子孫二千八百十八人^二エラムの子孫千二百五十四人^三ザツトの子孫八百四十五人^四ザツカイの子孫七百六十人^五ビンヌイの子孫六百四十八人^六ベバイの子孫六百二十八人^七アズガデの子孫二千三百一十二人^八アドニカムの子孫六百六十七人^九ビグワイの子孫二千六十七人^〇アデンの子孫六百五十五人^一ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人^二ハシユムの子孫三百二十八人^三ベザイの子孫三百二十四人^四ハリフの子孫百十二人^五ギベオンの子孫九十五人^六ベテレヘムおよびネトパの人百八十八人^七アナトテの人百二十八人^八ベテアズマウテの人四十二人^九キリアテヤリム、ケヒラおよびベエロテの人七百四十三人^〇ラマおよびゲバの人六百二十一人^一ミクマシの人百二十二人^二ベテル

およびアイの人百二十三人^三他のネボの人五十二人^四他のエラムの民千二百五十四人^五ハリムの民三百二十人^六エリコの民三百四十五人^七ロド、ハデテおよびオノの民七百二十一人^八セナアの子孫三千九百三十人^九祭司はエシユアの家のエダヤの子孫九百七十三人^〇インメルの子孫千五十二人^一パシユルの子孫一千二百四十七人^二ハリムの子孫一千七十七人^三レビ人はホデワの子等エシユアとカデミエルの子孫七十四人^四謳歌者はアサフの子孫百四十八人^五門を守る者はシャルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アツクブの子孫ハテタの子孫シヨバイの子孫百三十八人^六ネテ二人はジハの子孫ハスパの子孫タバオテの子孫^七ケロスの子孫シアの子孫パドンの子孫^八レバナの子孫ハガバの子孫サルマイの子孫^九ハナンの子孫^〇ゲデルの子孫ガハルの子孫^一レアヤの子孫レチンの子孫ネコダの子孫^二ガザムの子孫ウザの子孫パセアの子孫^三ベサイの子孫メウニムの子孫ネフセシムの子孫^四バクブクの子孫ハクパの子孫ハルホルの子孫^五バツリテの子孫メヒダの子孫ハルシヤの子孫^六バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫^七ネチアの子孫^八ハテパの子孫等なり^九ソロモンの僕たりし者等の子孫は即ちソタイの子孫ソペレテの子孫ベリダの子孫^〇ヤアラの子孫ダルコンの子孫ギデルの子孫^一シパテヤの子孫ハツテルの子孫ボケレテハツゼバィムの子孫アモンの子孫^二ネテ二人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人^三

またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アドンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき^{六〇}是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百四十二人^{六一}祭司の中にホバヤの子孫ハツコツの子孫バルジライの子孫ありバルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその名を名りしなり^{六四}是等の者系圖に載る者等の中にその籍を尋ねたれども在ざりき是故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり^{六五}テルシヤタ即ち之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言ひ^{六六}會衆あはせて四萬二千三百六十人^{六七}この外にその僕婢七千三百三十七人謳歌男女二百四十五人あり^{六八}その馬七百三十六匹その騾二百四十五匹^{六九}駱駝四百三十五匹驢馬六千七百一十匹^{七〇}宗家の長の中工事のためにを納めし人々ありテルシヤタは光一千ダリク鉢五十祭司の衣服五百三十襲を施して庫に納む^{七一}また宗家の長數人は金二萬ダリク銀二千二百斤を工事のために庫に納む^{七二}その餘の民の納めし者は金二萬ダリク銀二千斤祭司の衣服六十七襲なりき^{七三}かくて祭司レビ人門を守る者謳歌者民等ネテ二人およびイスラエル人すべてその邑々に住りイスラエルの子孫かくてその邑々に住みをりて七月にいたりぬ

第八章一茲に民みな一人のごとくになりて水の門の前なる廣場に集り學士エズラに請てエホバのイスラエルに命じたまひし

モーセの律法の書を携へきたらんことを求めたり^二この日すなはち七月一日祭司エズラ律法を携へ來りてその集りをる男女および凡て聽て了ることを得るところの人々の前に至り^三水の門の前なる廣場にて曙より日中まで男女および了り得る者等の前にこれを誦めり民みな律法の書に耳を傾く^四學士エズラこの事のために預て設けたる木の臺の上に立たりしがその傍には右の方にマツタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤ立をり左の方にベダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシユム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシユラム立をる^五エズラ一切の民の目の前にその書を開けり(彼一切の民より高きところに立たり)かれが開きたる時に民みな起あがり^六エズラすなはち大神エホバを祝しければ民みなその手を挙て應へてアーメン、アーメンと言ひ首を下げ地に俯伏てエホバを拝めり^七エシユア、バニ、セレビヤ、ヤミン、アツクブ、シヤベタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバテ、ハナン、ペラヤおよびレビ人等民に律法を了らしめたり民はその所に立をる^八彼等その書に就て神の律法を朗かに誦み且その意を解あかしてその誦ところを之に了らしむ^九時にテルシヤタたるネヘミヤ祭司たる學士エズラおよび民を教ふるレビ人等一切の民にむかひて此日は汝らの神エホバの聖日なり哭くなかれ泣なかれと言ひ其は民みな律法の言を聴て泣たればなり^{一〇}而して彼らに言けるは汝ら去て肥たる者を食ひ甘き者を飲め而してその備をなし得ざる者に之を分

ちおくれ此日は我らの主の聖日なり汝ら憂ふることをせざれエホバを喜ぶ事は汝らの力なるぞかしと一レビ人も亦一切の民を静めて言ふ汝ら黙せよ此日は聖きぞかし憂ふる勿れと二一切の民すなはち去りて食ひかつ飲み又人に分ちおくりて大なる喜悅をなせり是はその誦きかされし言を了りしが故なり三その翌日一切の民の族長等祭司およびレビ人等律法の語を學ばんとて學士エズラの許に集り來り四律法を視るにエホバのモーセによりて命じたまひし所を録して云く七月の節會にはイスラエルの子孫茅廬に居るべしと五又云く一切の邑々及びエルサレムに布傳へて言べし汝ら山に出ゆき橄欖の枝油木の枝烏拈の枝棕櫚の枝および茂れる木の枝を取きたりて録されたるごとくに茅廬を造れと六是において民出ゆきて之を取きたり各々その家の屋背の上あるひはその庭あるひは神の室の庭あるひは水の門の廣場あるひはエフライムの門の廣場に茅廬を造れり七七擴はれゆきて歸り來りし會衆みな斯茅廬を造りて茅廬に居り又八の子ヨシユアの日より彼日までにイスラエルの子孫斯おこなひし事なし是をもてその喜悅はなはだ大なりき八初の日より終の日までエズラ日々に神の律法の書を誦り人衆七日の間節筵をおこなひ第八日に行たり例にしたがひて聖會を開けり

第九章一その月の二十四日にイスラエルの子孫あつまりて断食し麻布を纏ひ土を蒙れり二イスラエルの裔たる者一切の異邦人とはなれ而して立て己の罪と先組の愆とを懺悔し三皆おのおの

がその處に立てこの日の四分の一をもてその神エホバの律法の書を誦み他の四分の一をもて懺悔をなしその神エホバを拜めり四時にエシユア、バニ、カデミエル、シバニヤ、ブンニ、セレビヤ、バニ、ケナニ等レビ人の臺に立ち大聲を挙てその神エホバに呼はれり五斯てまたエシユア、カデミエル、バニ、ハシヤブニヤ、セレビヤ、ホデヤ、セバニヤ、ペタヒヤなどのレビ人言けらく汝ら起あがり永遠より永遠にわたりて在す汝らの神エホバを讚よ汝の尊き御名は讚べきかな是は一切の讚にも崇にも遠く超るなり六汝は唯なんぢのみエホバにまします汝は天と諸天の天およびその萬象地とその上の一切の物ならびに海とその中の一切の物を造り之をことごとく保存せたまふなり天軍なんぢを拜す七汝はエホバ神にまします汝は在昔アブラムを撰みてカルデアのウルより之を導きいだしアブラハムといふ名をこれにつけ八その心の汝の前に忠信なるを觀そなはし之に契約を立てカナン人へテ人アモリ人ペリジ人エブス人およびギルガシ人の地をこれに與へその子孫に授けんと宣まひて終に汝の言を成たまへり汝は實に義し九汝は我らの先祖がエジプトにて艱難を受るを鑒みその紅海の邊にて呼はり叫ぶを聴いれ一〇異兆と奇蹟とをあらはしてパロとその諸臣とその國の庶民とを攻たまへりそはかれらは傲りて我らの先祖等を攻しことを知たまへばなり而して汝の名を揚たまへること尚今日のごとし一汝はまた彼らの前にあたりて海を分ち彼らをして旱ける地を踏て海の中を通らしめ

彼らを追ふ者をば石を大水に投いるごとくに淵に投げられたまひ^二また晝は雲の柱をもて彼らを導き夜は火の柱をもて其往べき路を照したまひき^三汝はまたシナイ山の上に降り天より彼らと語ひ正しき例規および眞の律法善き法度および誠命を之に授け^四汝の聖安息日を之に示し汝の僕モーセの手によりて誠命と法度と律法を之に命じ^五天より食物を之に與へてその餓をとどめ磐より水を之がために出してその渴を濕し且この國をなんぢらに與へんと手を挙て誓ひ給ひしその國に入これを獲べきことをかれらに命じたまへり^六然るに彼等すなはち我らの先祖みづから傲りその項を強くして汝の賊命に聴したがはず^七聽従ふことを拒み亦なんぢが其中にて行ひたまひし奇蹟を憶はず還てその項を強くし悖りて自ら一人の首領を立てその奴隸たりし處に歸らんとせり然りと雖も汝は罪を赦す神にして恩恵あり憐憫あり怒ること遅く慈悲厚くましまして彼らを棄たまはざりき^八また彼ら自ら一箇の犢を鑄造りて是は汝をエジプトより導き上りし汝の神なりとて大に震怒をひきおこす事を行ひし時にすら^九汝は重々も憐憫を垂て彼らを荒野に棄たまはず晝は雲の柱その上を離れずして之を途に導き夜は火の柱離れずして之を照しその行べき路を示したりき^{一〇}汝はまた汝の善霊を賜ひて彼らを訓へ汝のmanaを常に彼らの口にあたへまた水を彼らに與へてその渴をとどめ^{一一}四十年の間かれらを荒野に養ひたまたれば彼らは何の缺る所もなくその衣服も古びずそ

の足も腫ざりき^{一二}而して汝諸國諸民を彼らにあたへて之を各々に分ち取しめ給へりかれらはシホンの地へシボンの王の地およびバシヤンの王オグの地を獲たり^{一三}斯てまた汝は彼らの子孫を増て空の星のごなくならしめ前にその先祖等に入て獲よと宣まひたる地に之を導きいりたまひしかば^{一四}則ちその子孫入てこの地を獲たり期て汝この地にすめるカナン人をかれらの前に打伏せその王等およびその國の民をかれらの手に付して意のままに之を待はしめたまひき^{一五}斯りしかば彼ら堅固なる邑々および膏腴なる地を取り各種の美物の充る家鑿井葡萄園橄欖園および許多の菓の樹を獲乃ち食ひて飽き肥太り汝の大なる恩恵に沾ひて樂みたりしが^{一六}尚も悖りて汝に叛き汝の律法を後に抛擲ち己を戒しめて汝に歸らせんとしたる預言者等を殺し大に震怒を惹おこす事を行なへり^{一七}是に因て汝かれらをその敵の手に付して窘しめさせたまひしが彼らその艱難の時に汝に呼はりければ汝天より之を聴て重々も憐憫を加へ彼らに救ふ者を多く與へて彼らをその敵の手より救はせたまへり^{一八}然るに彼らは安を獲の後復も汝の前に惡き事を行ひしかば汝かれらをその敵の手に棄おきて敵にこれを治めしめたまひけるが彼ら復立歸りて汝に呼はりたれば汝天よりこれを聴き憐憫を加へてしばしば彼らを助け^{一九}彼らを汝の律法に引もどさんとして戒しめたまへり然りと雖も彼らは自ら傲りて汝の誠命に聴したがはず汝の例規(人のこれを行はば之によりて生べしといふ者)を

犯し肩を聳かし頂を強くして聴ことをせざりき^{三〇}。斯りしかど
汝は年ひさしく彼らを容しおき汝の預言者等に由て汝の靈をも
て彼らを戒めたまひしが彼等つひに耳を傾けざりしに因て彼ら
を國々の民等の手に付したまへり^{三一}。されど汝は憐憫おほくし
て彼らを全くは絶さず亦彼らを棄たまふことをも爲たまはざり
き汝は恩恵あり憐憫ある神にましませばなり^{三二}。然ば我らの神
大にして力強く且畏るべくして契約を保ち恩恵を施こしたまふ
御神ねがはくはアツスリヤの王等の日より今日にいたるまで我
儕の王等牧伯等祭司預言者我らの先祖汝の一切の民等に臨みし
諸の苦難を小き事と觀たまはざれ^{三三}。我らに臨みし諸の事につ
きては汝義く在せり汝の爲たまひし所は誠實にして我らの爲し
ところは惡かりしなり^{三四}。我らの王等牧伯等祭司父祖等は汝の
律法を行はず汝が用ひて彼らを戒しめたまひしその誠命と證詞
に聽従はざりき^{三五}。即ち彼らは己の國に居り汝の賜ふ大なる恩
恵に沾ひ汝が與へてその前に置たまひし廣き膏腴なる地にあり
ける時に汝に事ふることを爲す又ひるがへりて自己の惡き業を
やむる事もせざりしなり^{三六}。嗚呼われらは今日奴隷たり汝が我
らの先祖に與へてその中の產物およびその中の佳物を食はせ
んとしたまひし地にて我らは奴隷となりをるこそはかなけれ^{三七}。
この地は汝が我らの罪の故によりて我らの上に立たまひし王等
のために衆多の產物を出すなり且また彼らは我らの身をも我ら
の家畜をも意のままに左右することを得れば我らは大難の中に

あるなり^{三八}。此もろもろの事のために我ら今堅き契約を立てこ
れを書しるし我らの牧伯等我らのレビ人我らの祭司これに印す
第一〇章一印を捺る者はハカリヤの子テルシヤタ、ネヘミヤお
よびゼデキヤニセラヤ、アザリヤ、エレミヤニバシユル、アマリ
ヤ、マルキヤ、^四ハツトシ、シバナヤ、マルク^五ハリム、メレモ
テ、オバデヤ^六タニエル、ギンネトン、バルク^七メシユラム、ア
ビヤ、ミヤミンハマアジア、ビルガ、シマヤ等は祭司たり^九レ
ビ人は即ちアザニヤの子エシユア、ヘナダデの子ピンヌイ、カ
デミエル^〇ならびに其兄弟シバナヤ、ホデヤ、ケリタ、ペラヤ、
ハナンニミカ、レホブ、ハシヤビヤニザツクル、セレビヤ、シ
バナヤニホデヤ、バニ、ベニヌ^四民の長たる者はパロシ、パハ
テモアブ、エラム、ザツト、バニ^五ブンニ、アズカデ、ベバイ
^{一六}アドニヤ、ビグワイ、アデン^{一七}アテル、ヒゼキヤ、アズル
^{一八}ホデヤ、ハシユム、ベザイ^{一九}ハリフ、アナトテ、ノバイ^{二〇}マ
グピアシ、メシユラム、ヘジルニメシザベル、ザドク、ヤドア
^{三三}ペラテヤ、ハナン、アナニヤ^{三三}ホセア、ハナニヤ、ハシユブ
^{二四}ハロヘシ、ピルハ、シヨベク^{二五}レホム、ハシヤブナ、マアセ
ヤ^{二六}アヒヤ、ハナン、アナニ^{二七}マルク、ハリム、バアナ^{二八}そ
の餘の民祭司レビ人門をまもる者謳歌者ネテ二人ならびに都て
國々の民等と離れて神の律法に附る者およびその妻その男子女
子など凡そ事を知り辨まふる者は^{二九}皆その兄弟たる貴き人々
に附したがひ呪胆に加はり誓を立て云く我ら神の僕モーセによ

りて傳はりし神の律法に歩み我らの主エホバの一切の誠命およびその例規と法度を守り行はん^{三〇}。我らは此地の民等に我らの女子を與へじ亦われらの男子のために彼らの女子を娶らじ^{三一}比地の民等たとひ貨物あるひは食物を安息日に携へ來りて賣んとすると安息日または聖日には我儕これを取じ又七年ごとに耕作を廢め一切の負債を免さんと^{三二}。我らまた自ら例を設けて年々にシケルの三分の一を出して我らの神の室の用となし^{三三}。供物のパン常素祭常燔祭のため安息日月朔および節會の祭物のため聖物のためイスラエルの贖をなす罪祭および我らの神の家の諸の工のために之を用ゐることを定む^{三四}また我ら祭司レビ人および民籟を撃き律法に記されたるごとく我らの神エホバの壇の上に焚べき薪水の禮物を年々定まれる時にわれらの宗家にしたがひて我らの神の室に納むる者を定め^{三五}かつ誓ひて云ふ我らの産物の初および各種の樹の果の初を年々エホバの室に携へきたらん^{三六}また我らの子等および我らの獸畜の首出および我らの牛羊の首出を律法に記されたるごとく我らの神の室に携へ來りて我らの神の室に事ふる祭司に交し^{三七}我らの麥粉の初われらの拳祭の物各種の樹の果および洒油を祭司の許に携へ到りて我らの神の家の室に納め我らの産物の什一をレビ人に與へんレビ人は我らの一切の農作の邑においてその什一を受べき者なればなり^{三八}レビ人什一を受る時にはアロンの子孫たる祭司一人そのレビ人と偕にあるべし而してまたレビ人はその什一の

十分の一を我らの神の家に携へ上りて府庫の諸室に納むべし^{三九}即ちイスラエルの子孫およびレビの子孫は穀物および洒油の拳祭を携さへいたり聖所の器皿および奉事をする祭司門を守る者謳歌者などが在るところの室に之を納むべし我らは我らの神の家を棄じ

第一章一民の牧伯等はエルサレムに住りその餘の民もまた籟を撃き十人の中よりして一人宛を聖邑エルサレムに來りて住しめその九人を他の邑々に住しめたり^二又すべて自ら進でエルサレムに住んと言ふ人々は民これを祝せり^三イスラエル祭司レビ人ネテ二人およびソロモンの臣僕たりし者等の子孫すべてユダの邑々にありておのおのその邑々なる自己の所有地に住をれり此州の貴き人々のエルサレムに住をりし者は左のごとし^四即ちユダの子孫およびベニヤミンの子孫のエルサレムに住る者は是なりユダの子孫はウジヤの子アタヤ、ウジヤはゼカリヤの子ゼカリヤはアマリヤの子アマリヤはシパテヤの子シパテヤはマハラレルの子是はペレズの子孫なり^五又バルクの子マアセヤといふ者ありバルクはコロホゼの子コロホゼはハザヤの子ハザヤはアダヤの子アダヤはヨヤリブの子ヨヤリブはゼカリヤの子ゼカリヤはシロ二人の子なり^六ペレズの子孫のエルサレムに住る者は合せて四百六十八人にして皆勇士なり^七ベニヤミンの子孫は左のごとしメシユラムの子サル、メシユラムはヨエデの子ヨエデはペダヤの子ペダヤはコラヤの子コラヤはマアセヤの子マア

セヤはイテエルの子イテエルはエサヤの子なり^八その次はガバ
イおよびサライなどにして合せて九百二十八人^九ジクリの子ヨ
エルかれらの監督たりハツセヌアの子ユダこれに副ふて邑を治
む^{一〇}祭司はヨヤリブの子エダヤ、ヤキン^{一一}および神の室の宰
セラヤ、セラヤはヒルヤキの子ヒルキヤはメシユラムの子メシ
ユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブ
の子なり^{一二}殿の職事をするその兄弟八百二十二人あり又アダ
ヤといふ者ありアダヤはエロハムの子エロハムはペラリヤの子
ペラリヤはアムジの子アムジはゼカリヤの子ゼカリヤはパシホ
ルの子パシホルはマルキヤの子なり^{一三}アダヤの兄弟たる宗家
の長二百四十二人あり又アマシサイといふ者ありアマシサイは
アザリエルの子アザリエルはアハザイの子アハザイはメシレモ
テの子メシレモテはイシメルの子なり^{一四}その兄弟たる勇士百
二十八人ありハツゲドリムの子ザブデエル彼らの監督たり^{一五}
レビ人はハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズ
リカムはハシヤビヤの子ハシヤビヤはブン^{一六}の子なり^{一六}また
シヤベタイおよびヨザバデあり是等はレビ人の長にして神の室
の外の事を掌どれり^{一七}またマツタニヤといふ者ありマツタニ
ヤはミカの子ミカはザブデの子ザブデはアサフの子なりマツタ
ニヤは祈禱の時に感謝の詞を唱へはじむる者なり彼の兄弟の中
にてバクブキヤといふ者かれに次り又アブダといふ者ありアブ
ダはシヤンマの子シヤンマはガラルの子ガラルはエドトンの子

なり^{一八}聖邑にあるレビ人は合せて二百八十四人^{一九}門を守る者
アツクブ、タルモンおよびその兄弟等合せて百七十二人あり皆
門々にありて伺守ることをせり^{二〇}その餘のイスラエル人祭司
およびレビ人は皆ユダの一切の邑々にありて各々おのれの産業
に居り^{二一}但しネテ二人はオペルに居りチハ及びギシバ、ネタ二
人を統ぶ^{二二}エルサレムにをるレビ人の監督はウジといふ者な
りウジはバニの子バニはハシヤビヤの子ハシヤビヤはマツタニ
ヤの子マツタニヤはミカの子なり是は謳歌者なるアサフの子孫
なりその職務は神の室の事にかかはる^{二三}王より命令ありて是
らの事を定め謳歌者に日々の定まれる分を與へしむ^{二四}ユダの
子ゼラの子孫メシザベルの子ペタヒヤといふ者王の手に属して
民に關る一切の事を取あつかへり^{二五}又村莊とその田圃につき
てはユダの子孫の者キリアテアルバとその郷里デボンとその郷
里およびエカブジエルとその村莊に住み^{二六}エシユア、モラダお
よびベテペレテに住み^{二七}ハザルシユアルおよびベエルシバと
その郷里に住み^{二八}チクラグおよびメコナとその郷里に住み^{二九}
エンリンモン、ザレア、ヤルムテに住み^{三〇}ザノア、アドラムお
よび其等の村莊ラキシとその田野およびアゼカとその郷里に住
り斯かれらはベエルシバよりヒンノムの谷までに天幕を張り^{三一}
ベニヤミンの子孫はまたゲバよりしてミクマシ、アヤおよびベ
テルとその郷里に住み^{三二}アナトテ、ノブ、アナニヤ^{三三}ハゾル、
ラマ、ギツタイム^{三四}ハデデ、ゼボイム、ネバラテ^{三五}ロド、オノ

工匠谷に住リ^{三六}レビ人の班列のユダにある者の中ベニヤミンに合せし者もありき

第二章一シャルテルの子ゼルバベルおよびエシユアと偕に上りきたりし祭司とレビ人は左のごとしセラヤ、エレミヤ、エズラニアマリヤ、マルク、ハツトシ^三シカニヤ、レホム、メレモテ^四イド、ギンネトイ、アビヤ^五ミヤミン、マアデヤ、ビルガ^六シマヤ、ヨヤリブ、エダヤ^七サライ、アモク、ヒルキヤ、エダヤ是等の者はエシユアの世に祭司およびその兄弟等の長たりき^八またレビ人はエシユア、ピンヌイ、カデミエル、セレビヤ、ユダ、マツタニヤ、マツタニヤはその兄弟とともに感謝の事を掌どれり^九またその兄弟バクブキヤおよびウンノ之と相對ひて職務をなせり^{一〇}エシユア、ヨアキムを生みヨアキム、エリアシブを生みエリアシブ、ヨイアダを生み^{一一}ヨイアダ、ヨナタンを生みヨナタン、ヤドアを生リ^{一二}ヨアキムの日に祭司等の宗家の長たりし者はセラヤの族にてはメラヤ、エレミヤの族にてはハナニヤ^{一三}エズラの族にてはメシユラム、アマリヤの族にてはヨハナン^{一四}マルキの族にてはヨナタンシ、シバニヤの族にてはヨセフ^{一五}ハリムの族にてはアデナ、メラヨテの族にてはヘルカイ^{一六}イドの族にてはゼカリヤ、ギンネトン膳良にてはメシユラム^{一七}アビヤの族にてはジクリ、ミニヤミンの族モアデヤの族にてはビルタイ^{一八}ハビルガの族にてはシヤンマ、シマヤの族にてはヨナタン^{一九}ヨヤリブの族にてはマツテナイ、エダヤの族にてはウジ^{二〇}サライ

の族にてはカライ、アモクの族にてはエベル^二ヒルキヤの族にてはハシヤビヤ、エダヤの族にてはネタンエル^三エリアシブ、ヨイアダ、ヨハナンおよびヤドアの日にレビ人の宗家の長等冊に録さる亦ペルシヤ王大リヨスの治世に祭司等も然せらる^四宗家の長たるレビ人はエリアシブの子ヨハナンの日まで凡て歴代志の書に記さる^五レビ人の長はハシヤビヤ、セレビヤおよびカデミエルの子エシユアなりその兄弟等これと相對ひて居る即ち彼らは班列と班列とあひむかひ居り神の人ダビデの命令に本づきて讚美と感謝とをつとむ^六マツタニヤ、バクブキヤ、オバデヤ、メシユラム、タルモン、アックフは門を守る者にして門内の府庫を伺ひ守れり^七是等はヨザダクの子エシユアの子ヨアキムの日に在り総督ネヘミヤおよび學士たる祭司エズラの日に在りし者なり^八エルサレムの石垣の落成せし節會に當りてレビ人をその一切の處より招きてエルサレムに來らせ感附と歌と鑢^九と瑟と琴とをもて歡喜を盡してその落成の節會を行はんとす^{一〇}是において謳歌ふ徒輩エルサレムの周圍の窪地およびネトパ人の村々より集り來り^{一一}またベテギルガルおよびゲバとアズマウテとの野より集り來れりこの謳歌者等はエルサレムの周圍に己の村々を建たりき^{一二}茲に祭司およびレビ人身を潔めまた民および諸の門と石垣とを潔めければ^{一三}我すなはちユダの牧伯等をして石垣の上に上らしめ又二の大なる隊を作り設けて之に感謝の詞を唱へて並進ましむ即ちその一は糞の門を指

て石垣の上を右に進めり^{三三}その後につきて進める者はホシヤヤおよびユダの牧伯の半^{三三}ならびにアザリヤ、エズラ、メシラム^{三四}ユダ、ベニヤミン、シマヤ、エレミヤなりき^{三五}又祭司の徒數人喇叭を吹て伴ふあり即ちヨナタンの子ゼカリヤ、ヨナタンはシマヤの子シマヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカヤの子ミカヤはザツクルの子ザツクルはアサフの子なり^{三六}またゼカリヤの兄弟シマヤ、アザリヤ、ミラライ、ギフラヤ、マアイン、ネタンエル、ユダ、ハナニ等ありて神の人ダビデの樂器を執り學士エズラこれに先だつ^{三七}而して彼ら泉の門を經ただちに進みて石垣の上口に於てダビデの城の段階より登りダビデの家の土を過て東の方水の門に至れり^{三八}また今一隊の感謝する者は彼らに對ひて進み我は民の半とともにその後に従がへり而して皆石垣の上を行き爐戌樓の上を過て石垣の廣き處にいたり^{三九}エフライムの門の上を通り舊門を過ぎ魚の門およびハナニエルの戌樓とハンメアの戌樓を過て羊の門に至り牢の門に立どまれり^{四〇}かくて二隊の感謝する者神の室にいりて立り我もそこにたち牧伯等の半われと偕にありき^{四一}また祭司エリアキム、マアセヤ、ミニヤミン、ミカヤ、エリヨエナイ、ゼカリヤ、ハナニヤ等喇叭を執て居り^{四二}マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨナハン、マルキヤ、エラム、エゼル之と偕にあり謳歌ぶ者聲高くうたへりエズラヒヤはその監督なりき^{四三}斯してその日みな大なる犠牲を獻げて喜悅を盡せり其は神かれらをして大に喜び樂

ませたまひたればなり婦女小兒までも喜悅り是をもてエルサレムの喜悅の聲とほくまで聞えわたりぬ^{四四}その日府庫のすべての室を掌どるべき人々を撰びて拳祭の品初物および什一など律法に定むるところの祭司とレビ人との分を邑々の田圃に准ひて取あつめてすべての室にいることを掌どらしむ是は祭司およびレビ人の立て奉ふるをユダ人喜びたればなり^{四五}彼らは神の職守および潔齋の職守を勤む謳歌者および門を守る者も然り皆ダビデとその子ソロモンの命令に依る^{四六}在昔ダビデおよびアサフの日には謳歌者の長一人ありて神に讚美感謝をたてまつる事ありき^{四七}またゼルバベルの日およびネヘミヤの日にはイスラエル人みな謳歌者と門を守る者に日々の分を與へまたレビ人に物を聖別て與へレビ人またこれを聖別てアロンの子孫に與ふ

第一三章一その日モーセの書を読んで民に聴しめけるに其中に録して云ふアンモ二人およびモアブ人は何時までも神の會に入べからず^二是は彼らパンと水とをもてイスラエルの子孫を迎へずして還て之を誑はせんとてバラムを傭ひたりしが故なり斯りしかども我らの神はその呪詛を變て祝福となしたまへりと^三衆人この律法を聞てのち雜りたる民を盡くイスラエルより分ち離てり^四是より先我らの神の家の室を掌れる祭司エリアシブといふ者トビヤと近くなりたれば^五彼のために大なる室を備ふ其室は元來素祭の物乳香器皿および例によりてレビ人謳歌者門を守る

者等に與ふる穀物酒油の什一ならびに祭司に與る拳祭の物を置し處なり^六常時は我エルサレムに居ざりき我はバビロンの王アルタシヤスタの三十二年に王の所に往たりしが數日の後王に暇を乞て^七エルサレムに來りエリアシブがトビヤのために爲たる惡事すなはちかれがために神の家の庭に一の室を備へし事を詳悉にせり^八我はなはだこれを憂ひてトビヤの家の器皿をこごとくその室より投いだし^九頓て命じてすべての室を潔めさせ而して神の家の器皿および素祭乳香などを再び其處に携へいれたり^{一〇}我また查へ觀しにレビ人そのつくべき分を與へられざりきこの故に其職務をなす所のレビ人および謳歌者等各々おのれの田に奔り歸りぬ^{一一}是において我何故に神の室を棄させしやと云て牧伯等を詰り頓てまたレビ人を招き集めてその故の所に立しめたり^{一二}斯りしかばユダ人みな穀物酒油の什一を府庫に携へ來れり^{一三}その時我祭司シレミヤ學士ザドクおよびレビ人ベダヤを府庫の有司とし之にマツタニヤの子ザツクルの子ハナンを副て庫をつかさどらしむ彼らは忠信なる者と思はれたればなり其職は兄弟等に分配るの事なりき^{一四}わが神よ此事のために我を記念たまへ我神の室とその職事のために我が行ひし善事を拭ひ去たまはざれ^{一五}當時われ觀しにユダの中にて安息日に酒榨みなねを踏む者あり麥束を持ちたりて驢馬に負するあり亦葡萄葡萄無花果および各種の荷を安息日にエルサレムに携へいるるあり我かれらが食物を鬻ぎをる日に彼らを戒しめたり^{一六}彼處にま

たツ口の人々も住をりしが魚および各種の貨物を携へいりて安息日にユダの人々に之を鬻ぎかつエルサレムにて商賣せり^{一七}是において我ユダの貴き人々を詰りて之に言ふ汝ら何ぞ此惡き事をなして安息日を洗すや^{一八}汝らの先祖等も斯おこなはざりしや我らの神これが爲にこの一切の災禍を我らとこの邑とに降したまひしにあらずや然るに汝らは安息日を洗して更に大なる震怒をイスラエルに招くなりと^{一九}而して安息日の前の日エルサレムの門々暗くならんとする頃ほひに我命じてその扉を閉させ安息日の過ざるまで之を開くべからずと命じ我僕數人を門々に置いて安息日に荷を携へいるる事なからしめたり^{二〇}斯りしかば商賣および各種の品を賣る者等^{二一}二回エルサレムの外に宿れり^{二二}我これを戒めてこれに言ふ汝ら石垣の前に宿るは何ぞや汝等もし重ねて然なさば我なんぢらに手をかけんと其時より後は彼ら安息日には來らざりき^{二三}我またレビ人に命じてその身を潔めさせ來りて門を守らしめて安息日を聖くす我神よ我ために此事を記念し汝の大なる仁慈をもて我を憫みたまへ^{二四}當時われアシドド、アンモン、モアブなどの婦女を娶りしユダヤ人を見しに^{二五}その子女はアシドドの言語を半雜へて言ひユダヤの言語を言ふことあたはず各國の言語を雜へ用ふ^{二六}我彼等を詰りまた詎りその中の數人を撻ちその毛を抜き神を指て誓はしめて言ふ汝らは彼らの男子におのが女子を與ふべからず又なんぢらの男子あるひはおのれ自身のために彼らの女子を娶るべからず

二六 是らの事についてイスラエルの王ソロモンは罪を獲たるに
非ずや彼がごとき王は衆多の國民の中にもあらずして神に愛せ
られし者なり神かれをイスラエル全國の王となしたまへり然る
に尚ほ異邦の婦女等はこれに罪を犯さしめたり^{二七}然ば汝らが
異邦の婦女を娶りこの一切の大惡をなして我らの神に罪を犯す
を我儕聽し置べけんや^{二八}祭司の長エリアシブの子ヨイアダの
一人の子はホロ二人サンバラテの婿なりければ我これを逐出し
て我を離れしむ^{二九}わが神よ彼らは祭司の職を汚し祭司および
レビ人の契約に背きたり彼らのことを忘れたまふ勿れ^{三〇}我か
く人衆を潔めて異邦の物を盡く棄しめ祭司およびレビ人の班列
を立て各々その職務に服せしめ^{三一}また人衆をして薪柴の禮物
をその定まる期に獻げしめかつ初物を奉つらしむ我神よ我を憶
ひ仁慈をもて我を待ひたまへ